

セブン代行（福島県郡山市、宗形三彩史社長）は無料通信アプリ「LINE（ライン）」や交流サイト「Facebook（FB、フェイスブック）」を積極的に使い、需要の拡大に結びつけている。随伴車7台、従業員は20人。
41歳の宗形社長が注目するのはSNS（ソート

セブン代行（福島・郡山市）



「適正な料金を收受し、従業員に還元したい」と話す宗形社長（左）。女性ドライバーと自社の前で

SNS活用若者利用を開拓

ヤルネットワークサービス。込もつと、2013年にス。だ。若い世代を取り、ラインの公式アカウント

を取得、代行サービスの適正利用や全国運転代行協会の活動を発信している。配車注文を受け付け、割引クーポンを配信するなど集客ツールとしても活用する。

宗形社長は全運協福島県支部長に昨年12月就任し、適正化活動に熱心。

「シニアアップに貢献している」と強調する。良い人材を集めるため

ラインの登録者が300人ほどと頭打ちになり、昨年からFBを開始。二つのSNSによって「会社のことがオープンになり、安心感につながっている」。女性客を増やし、女性の従業員も二種免許取得者を含め4人在籍しており「社のイメージを向上させる業界に」と精力的に取り組む考えだ。

2月に一人で自主パトロールを実施、随伴車の適正な車体表示やAB間輸送（タクシー類似行為）の禁止を訴えた。1カ月で大幅に改善され、手応えをつかんでいる。「法令を順守し、この先も必要とされる業界に」と精力的に取り組む考えだ。